



今年の五ツ又まつり総ざらえ

今年の五ツ又祭りは7月20日、21日の両日、五ツ又森の公園で開催されました。この時期はおおかた梅雨の末期で、昨年は初日の神輿山車巡行から大雨に見舞われ、盆踊りの最中も雨模様でした。それが今年は7月上旬に梅雨明けという異常気象の中、幸いにも2日間快晴に恵まれました。暑かったですけどね。近隣の祭りは早くても1週間後、川越百万灯まつりも1週間後でしたから、開催した祭りは五ツ又だけ。随分と多くの方々にお集まりいただきました。このページでは五ツ又祭りの会場ルポをお伝えします。

●参加者はどれほど

祭り参加者数は勘定したわけではないので、正確には不明。唯一物差しになるのは会場で無料配布のアイスキャンディで、配布数は2日間で2000本。大体の方は口にしてましたから、最低でも配布時刻には2000人はいらしたと思います。でも冷たいものは食べない主義の方や遠慮された方もいらしたでしょうしご帰宅という方もいたかもしれません。

今年は踊りの輪が繋がりました。例年は途切れ途切れなのです。狭い会場ですから本部前が数少ない通路になりますが、ここも人で埋まって混雑を極めました。自転車の方が許容を超えて、福田屋さんの駐車場まで埋め尽くしました。

などなど考え合わせますと、3500人はいたのではないかな。というのは主催者の欲目かな。



●出会いの場

会場に来る理由は何。夜、提灯が照らす明かりは特別です。明るく赤いのは子供にとって心浮き浮きするものです。盆踊りの音楽や太鼓の音も興奮材料です。夜の時間に友達と飛び回っていても親にたしなめられないのはこの日ぐらいしかないでしょう。

中学校・高校に進み、日常小学・中学時代の友人と近くに住みながら会えない人たちにとって、まつりは格好の出会いの場です。学校帰りに制服姿でまつり会場に来て懐かしい顔を探している様子は年に一度の七夕です。約束もしないで会えることはこの日以外にまずあり得ないでしょう。

赤ちゃんを乗せた乳母車を押すおじいちゃんと子供の手をつなぐ若いママ、以上会場に向かう合計4人のグループを見ました。普段父親と離れて生活している娘家族が、祭りを機会に里帰りしているのかも知れない。久々の家族の再会。これは私の想像に過ぎませんが。五ツ又祭りがそうしている、そういう場所を提供できる嬉しさ。



●スタッフの心意気

五ツ又祭りを実施しているスタッフは自治会からは役員と理事、各部長、ほかにまつり保存会、壮年ソフトボール部、GG部、親和会など外郭団体の人たち、総計100名ほどの人たちです。(次ページに続く)



この人たちが会場の準備、山車・神輿の誘導、盆踊りの会場運営、後片付けなど期間として2週間、正味5日間、祭りの運営に当たります。スタッフは大方ボランティアでの参加です。にもかかわらず黙々と作業をします。

「こんな大変なことを結構歳の行ってる人たちがやってくれているのには頭が下がるよね」とは会場で聞いた言葉。そう思いますよ。期間中スタッフの脳の中は幸福感が溢れています。地元への奉仕というかけがえのない達成感によります。そうでなければやれるものではありません。ところでスタッフになるには特別な資格は要りません。手を上げさえすれば誰でも参加できます。来年あたりいかが。



●売店はすごいぞ

五ツ又まつりの特徴のひとつは模擬店の多さでしょう。焼鳥など酒の肴・ビール・おもちゃ・フライングポテト・水ヨーヨー・ソーセージ・飲料・カキ氷などなど充実してます。しかも会場の主要な場所に沢山の提灯に照らされて店開きです。以上、近隣の祭り会場ではそう見られるものではありません。模擬店は全部自治会員の自前のお店で露天商はいません。販売価格を安くできる理由です。夜の祭りの主役は盆踊りなのか、模擬店なのか、判断のむずかしいところです。

客が多いのが毎年毎年うれしい誤算。40分も待つお店があります。焼鳥は夕食のおかずに買いに来る人がいたりします。

提供する商品は毎年少しずつ増えています。でも人の欲望にはきりがありません。たこ焼きやイカ焼きはないのかしらというご意見を伺いました。ただ問題山積です。たこ焼きは手間がかかります。冷凍たこ焼きの焼き直しがうけるかどうか、生ものは衛生上取り扱いがむずかしいし。価格を抑えるためにはどうするか。実施するのは自治会員限定ですから、会員が製造販売を受けてくれることが第1の条件です。しばし検討いただくということでお茶を濁させていただきます。



●昼の祭は神輿・山車

昼の祭りの主役は、神輿・山車でしょう。山車は36年前の昭和52年に川村工務店から贈られたもの、子ども神輿の一つは34年前の昭和54年自治会が新品を購入、大人神輿と子ども神輿のもう一つは4年前の平成21年に霞町自治会から購入したものです。いま五ツ又自治会には大人神輿1台、子ども神輿2台、山車1台があります。豪勢です。大人神輿はまつり保存会という強力な担ぎ手がいるのに加え、近隣から6名の参加者を迎えました。子ども神輿には北小サッカー部員の協力を得て万全の態勢でした。山車は子供の数が去年に較べて少々少なめでしたが、もちろん曳けない人数ではありません。

今年は北小の催し物と重なったために、巡行は2日目の21日となりました。去年と違って天候に恵まれ、暑さ対策が重要になりましたが、怪我や熱中症はありませんでした。めでたしめでたしです。



●夜の祭は盆踊り



踊りの中心になっていただいているのは、矢口師匠と今年の弟子である北小ウイング役員の方々です。ほぼずっと踊りの輪を作っていただきました。

見ると輪の外で浴衣姿、うちわを持っていつでもスタンバイ状態、でも家族に勧められても動かない人がいます。きっと心の中はうずうずしているのですよ。でも人前に出るのが恥ずかしい、その気持ちわかります。ために声をかけて輪に入ってもらったら、踊りが止まりません。踊りが好きなのでしょう。人間、思い切れば何でもできる、ほどの話ではないのですが、年に2日しか催されない行事です。やってみて楽しかったでしょう。

手振りを右左間違えたり、足の運びの前後を間違えて前の人にぶつかってみたり、見ていてとてもほほえましいものです。お母さんが踊ればその子も踊る、いい子育ていい親子関係ができます。



●太鼓は心が震える



太鼓の音が嫌いという人はいますかね。大方は聞くのが好き、打つのはもっと好きでしょう。太鼓演奏の団体に入っている人はともかく、一般人は年に大体2日間限りの機会です。祭り前の太鼓練習には3日間で延べ100人の子供が参加しました。さて打ち手は確保。

ただ盆踊りの太鼓の打ち方は何故か踊り1曲につき1名です。1日で20曲とすると打てるのは20人となります。いくら首を長くしても順が回ってきません。もっと多くの子供たちに打たせてあげたいのが人情です。この対策として今年は快挙です、自治会が所有する太鼓は1張でしたが、今年はまだ

2張購入しました（うち1張はご寄付）。合計3張ですから太鼓打ち希望者の処理能力は3倍です。計算上2日間で120人が打てることになったのです。2張は櫓の上、1張は地上に置きました。地上は混み合ってます。すると打ちたいばかりに怖さを忘れて櫓に登る子供もでてきました。

3張の太鼓に並ぶ子供多数でしたが、その背後にちょっと遠慮がちな幼い子供が控えていました。櫓下に片付けられた彩の会の太鼓につい触れてしまったりして。それを見た彩の会会長がバチを持って走り、なんと傍にいる子供たちに彩の会の太鼓を解放してくれました。大事な太鼓なのによかったのでしょうか。とてもありがたいことでした。これに味を占めて来年の練習には何人参加するでしょう。自治会館は狭すぎて玄関に列が出来たりしてね。



●費用の七割は

五ツ又祭りの予算はどれほどのものでしょう。「想像つかないよ」。でしょう、ではさらっとお教えしましょうおよそ百万円です。高額といえば高額です。でも参加者一人当たり多く見積もっても300円程度でしょう。祭が地元に及ぼす効果からすれば安いものです。

(次ページに続く)

この費用のうち七割は、実は祭りにと皆様から頂いた浄財で賄われます。

上述のように祭りに力や時間を提供して下さる方、費用を提供してく

ださる方、参加して下さる方、この三者が揃って初めて祭りが成り立ちます。地区の活性化のために来年もお力添えいただけますように。



五ツ又交差点安全地帯設置

五ツ又交差点をわたる場合、使う横断歩道と信号ボタンは川村宅前にあります。1～10区あたりから通学するには直進すればよいのですが、14～20区また、6丁目方面から来る場合は一度森の公園側の道を渡ります。このとき進入してくる車を避けるために三角のスペースで待機します。今夏この背後に家が新築され、測量・建築中はこのスペースの扱いが曖昧になっていました。

7月20日、五ツ又交差点に大きな変化がありました。三角地帯が舗装され、横断歩道が描かれました。もう雨天でも水溜まりに気をを使うことはありません。

このスペースは学童の安全地帯として確保したものです。道路を拡張したのではありませんので、車の通行はご遠慮いただくよう柵を設けてあります。



話題

五ツ又の不思議（1）

五ツ又自治会第19区の某邸敷地内に南側の道路に面して少女風の彫像が置かれているのをご存知ですか。高さ1mほど、赤花崗岩で、やや前かがみでうつむいているようですが、表情は沈んでいません。むしろ微笑んでいるように見えます。なぜか腰あたりに白菜らしきものをヘタを正面に向けて持っています。7、8年前から置かれていますが、最近小さな鳥居が置かれさらに謎めいてきました。いったいこれは何者でしょう。なにやら悲話でもあるのでしょうか。この問題に関しては所有者に伺うしかありません。

伺いました。その答えは意外…。現オーナーがある工事の際に発注者から要らないので始末してほしいと依頼されたそうです。しかし、素材は石、大きくて形があるものです。壊して産業廃棄物として捨てるのは心情的に抵抗があります。結局捨てられませんでした。台を作りその上に置くことになりました。これを見て何か謎を感じた方がいらっしゃるのでしょうかね、その結果が誰が置いたか高さ8センチほどの赤鳥居。

所有者いわく、「宗教的には何もありません。でも可愛がっていただくのはありがたいことです」。鳥居の撤去は考えていないようです。この像と同時に持ち帰った白雪姫の7人の小人がいます。かなりの大物です。こちらは欲しい人がいればさしあげるとのこと。ただし運搬は自己負担です。

そうか少女は白雪姫？ いえ白雪姫の持ち物はリンゴです、白菜ではありません。簡単に答えを求めるのはよくありません。やっぱり謎ということに。

